

NEWS LETTER

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営支援モデルの取り組みを紹介します。

Vol.3 開催日2019.7.25

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

点が線でつながらない組織をどうするか

by 中央包括（梅園学区）

【目的&ねらい】協議体形成のため、情報や課題を共有することで学区に横のつながりを作ることを目指す。各町の取り組みを互いに意識してもらいながら、見守り体制や通いの場作りにつないでいきたい。

【活動報告】 6月6日：梅園協議会に出席。福祉委員長より、地域づくりについての課題提起がなされ、出席者の賛同を得た。他団体を知り、つながるための「（仮称）梅園新聞」作成の提案などもされ、情報共有の必要性を感じていることが垣間見えた。しかし団体数が多いことや、互いの組織や立場を尊重したいという気持ちもあり、すぐに連携することは難しいという印象である。

- ・**キーパーソン**／学区福祉委員長、梅園協議会長、民生委員長
- ・**成果**／7月：籠田公園ワークショップで公園周辺の町内会による「7町連合会」が立ち上がる。今は夏祭りに向けて話し合い中。
- ・**計画**／7月26日：梅園協議会にて竜美丘学区のフローチャートを紹介。モデルとして、やる気のある町内会から取り組みを始める。町内会の単位が小さい場合は分団単位で実施する予定。
- ・**課題**／「困ったら包括へ言えばいい」と思われており「地域づくりをしたい包括に協力している」というスタンスである。「住民で解決するという我が事」への意識改革が必要である。

【助言】「誰も困っていない、包括は困っている」と、住民に思われている状況を打破する必要がある。地域の困っている人のことを把握していないことが課題ではないか。

【概況】学区が広く、幹線道路が通り、町内ごとの年齢構成割合や生活課題が異なっている。高齢化率が40%を超え、ケアが必要な古いまちは担い手が不在。若いまちの方が活動が起しやすい状況である。地域差ゆえに全体での身動きが取りづらく、各団体のつながりや理解が弱いように見受けられる。



古くからのまちで、町内会の単位が小さいため、担い手がいない地区も多い。籠田公園周辺の「7町連合会」立ち上げは、画期的。

【概況】学区福祉委員会の歴史が他地域に比べ浅く、役員も交代制や担い手不足のために、課題の共有が他学区よりも弱いと思われる。市営住宅は、高齢者、母子家庭や外国人の割合も高いため、役員の負担が大きい。岩津公園愛護運営会と、いわづハウス、市営住宅、北部地域福祉センターが近接している。

市営住宅と公園と空き家活用の取り組みをつなぎたい

by 北部包括（岩津学区）

【目的&ねらい】市営住宅、空き家、公園活用という異なる課題に対して、関係者をつなぐことで、新たなネットワークとコミュニティ拠点作りを目指す。

【活動報告】

3月：市営住宅民生委員より、「助けてほしい人が多いが一人ではやりきれない」という相談を受け、包括より豊橋三本木の取組みを紹介。ニーズ把握と担い手確保に向けたアンケートを実施。電球交換と家具移動の需要が高い。

- ・**キーパーソン**／いわづハウスと公園愛護運営会を進めている障がいデイの管理者、市営住宅の民生委員・総代
- ・**成果**／7月：回収率82.7%。アンケートから支援できるという回答を記名で22名得られる。7月15日：いわづハウスopen！ 防災キャンプチラシ完成
- ・**予定**／市営住宅集会所の利用方法について本日話し合い予定。8月：公園愛護運営会による防災キャンプ実施。
- ・**課題**／アンケート結果をどのように実働に向けて利用できるか。コーディネートはどうするか。

【助言】やってほしいこと、やれることが明確になっているので、マッチングできれば実施は可能。やりやすいところからやってみる。ゴミ出しや買い物は供給過剰ではあるが、見守り効果もあり周りにも見えやすい。地域通貨も含めて有償にするか、会に運営費として入れるかなど議論必要。いわづハウスとココラボも楽しそう。

今回のキモ！

アンケート実施による見える化効果！
50%の人は困っていることが判明。
支援できる人が22人いることが明らか。
将来、地域通貨をいわづハウスの
コーヒーチケットにしてみても？



◆編集後記◆北部包括さん、りたさん、いわづハウスプロジェクトメンバーさんと名古屋市の池上台ハウスの視察をしてきました！皆さんの熱い思いと笑顔の前に「こんなまちで暮らしたいなあ」と思いました。それが一番の動機づけ？無理なく楽しくやりたいです。